



No. 2967

第3285回例会

平成24年2月8日

DISTRICT 2500 OB/HIRO ROTARY CLUB

方針

ロータリーを学び
共に楽しもう

会長 加藤 維利

2011-12年度
国際ロータリーのテーマ

Reach Within to Embrace Humanity

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために



■プログラム 【国際ロータリー世界理解月間】 帯広5ロータリークラブ・芽室ロータリークラブ 音更ロータリークラブ合同例会

講師経歴紹介 帯広西RC 国際奉仕委員会 神田 龍一 理事

本日の講師須田達史様の経歴をご紹介させていただきます。1964年生まれで、長崎出身。幼少より、剣道・柔道・空手と武道を経験。16歳で国際空手道連盟極真会館に入門、19歳で黒帯取得。極真の練習において、週に二度は自分をいじめ抜き、気絶する日を設けていたり、蹴りの練習をするのに、肉が切り裂け、骨が見えるぐらいまで練習をしていたという逸話も残っております。

18歳で、日本で一番厳しいといわれる特殊部隊である陸上自衛隊習志野第一空挺団に入隊。最強チームづくりのためには、強い個が不可欠である事を痛感、後の会社設立を考える発端となったようです。除隊後、20歳でキックボクシングを始め、23歳で日本チャンピオンに。その後、数年間タイ・オランダへ武者修行に出かけ、世界トップレベルのノウハウを取得。帰国後は、空手、キックボクシング、シュートボクシング、K-1のトレーナーとして活躍し、過去20年間で、日本チャンピオン20名、K-1チャンピオンのアンディー・サワーなど世界チャンピオン8名を輩出しております。これには、自身のセルフコントロール能力を高める「脅威の心身調律メソッド・体幹チューニング」が関係していると言われております。その後、人間の持つ身体能力と思考能力を最大限導き出す、独自の能力開発プログラムを創案。2007年ヒューマン・パワー・イノベーションを設立、主に経営者、企業リーダー向けの新たな事業展開を図っています。強い「個」を育成し、チーム全体の士気を高め、成果を上げるために、個人のブレない信念と人生観を構築していく「須田塾」を全国で展開。世界中の子供たちを対象に、各国の武道を通じて心技体を鍛え、お互いを思いやる心を養い、オリンピックのような世界規模の大会を実現するためにつくられたKリーグにも代表理事として参画されておられます。講師の須田様のご紹介とさせていただきます。

【本気で戦えば、本気の友情が生まれる】

(株)ヒューマン・パワー・イノベーション 代表取締役

NPO法人Kリーグインターナショナルネットワークス代表理事 須田 達史 様



私が今までやらせていただいております子供たちに対し国際奉仕を話させていただきます。ずうっと武道や格闘技の世界で生きてまいりました。その世界を通して、これから何か恩返しが出来ないかなという思いから、世界中の子供たちに格闘技・武道を通して、国際交流を図ってもらいたいと思い、このNPO法人を立ち上げました。

「本気で闘えば、本気の友情が生まれる」ということでお話をさせていただきます。大人が闘うと、戦争になります。でも、子供が闘うと、友情になるのです。皆さんは、小学生のような小さい頃、喧嘩をされた経験をお持ちだと思いますが、子供の時は喧嘩をすればするほど、お互いを分かり合える。今の子供たちは、メールで嫌がらせをしたり、しかとをしたりして全然触れ合いがない。そういう時代に、敢て、魂と魂をぶつけ合うような場が必要であると、強く実感し、こういったKリーグを立ち上げてまいりました。世界中に武道・格闘技があります。世界中の文化、日本においては相撲、柔道や空手。中国においては、中国拳法、ファンラがあります。タイなら、ムエタイ。韓国ならテコンドー。ブラジルではカポエラという競技があります。それぞれの民族によって、それぞれの格闘技、文化が生まれているわけです。それを継承していく子供達を一堂に会して、触れ合うとかぶつけ合うことを発案いたしました。今から10年ほど前になりますが、この活動をさせていただいております。世界中の子供達が、自分の国の民族の国技に誇りを持って戦える場、というものを作っていくという思いで、Kリーグを立ち上げてさせていただきました。Kリーグは、各国の武道を通じ、痛みを知り、

お互いの思いやる心を養うことを最大の目的としております。言語を超えた体と体のぶつかり合いによって、相手の痛みもお互い知ることです。これをオリンピック競技のような大きな、世界的なイベントにしていきたいと思っています。自分の国に誇りを持ち、子どもの頃から先輩に教わってきた思いをお互いに共有しあう場を武道・格闘技を通じて伝えていきたいと思っています。ですから、身体だけ鍛えるのではなく、心技体全てをお互い切磋琢磨しあうという場が必要であると思っています。それを、ドラゴンボールZの天下一武道会から発案いたしました。天下一武道会をご存知の方いらっしゃいますか。最近のアニメなので、ご存じない方もいらっしゃると思いますが、天下一武道会というのは、宇宙中から格闘家が集まって、ドラゴンボールというものを狙って行うトーナメント大会があるんです。なので、地球を越えた垣根の無い宇宙の世界の大会なんです。それを実際にやってみたいと思いました。K-1と同じように、主に12歳以下のまだ身体も頭も柔らかい子供たちを中心に、5歳の子供もちゃんとアナウンスをしてあげて、「青コーナーより・・・選手入場です。」と言ってあげると、その子はその気になります。「強気」より大事なのは、「その気」なんです。「その気」になって、リングに上がってきます。そして堂々と闘います。一步も引きません。その姿を見た時に、「凄いなあと」と思います。いろんな観念が入っていない時期に、子供の持っている本能を導き出すという場が必要であると思いついて、Kリーグジャパンカップというものを開催してまいりました。防具を付けて、安全性は勿論最大限重視した上で、各格闘技の特性を一番発揮できるようなルールを設定し行っております。そして、世界大会もやってまいりました。

今日のテーマであります「本気」、一生懸命と本気は違うということ伝えております。どう違うかというと、「一生懸命」のメンタリティーというのは、人に言われてもなれる状態のことを言う。「一生懸命」ということは悪いことではないですが、「一生懸命」頑張り過ぎると、だんだんしんどくなります。周りが見えなくなってきます。身体も硬くなり、深刻になっていくと勝てなくなります。そうすると本人は、苦しくなってきます。それに対して、「本気」のメンタリティーは、自らの意思がないとなれない状態であります。子供たちは、自らの意思でリングに上がります。そして、自らの意思で闘っています。やらされている訳ではない。そうすると頑張っていないで、覚悟を決めていく。「頑張る」と「覚悟を決める」は、ぜんぜん違います。覚悟が決まっている人は、もう腹が据わっているもので、深刻にはならない。どうなるかというと、真剣になります。「深刻」と「真剣」はぜんぜん違います。リングへ上がると、真剣勝負の世界になります。真剣勝負をやるからこそ、自分の本気の魂が引き出されていくのではないかと思います。今の子供たちに、なかなか真剣勝負の場がありません。私の場合は、武道や格闘技を通して、そういったことを伝えていきたいと思っています。「真剣」という状態は、全体が見えていて集中出来ている状態をいうので、結果につながり楽しくなっていく。どんな分野においても、最終的に成功する人というのは、全て「本気」の人達ではないかと思っています。当然スポーツの世界、リングの上で上がると「真剣」にならざるを得ない。嫌でも「真剣」になる。恐怖感が常にあります。恐怖の裏返しに「真剣」であり、恐怖があるから「真剣」になれる。臆病だから、強くなれるんだという事を子供たちに伝えております。だから、弱いということは、強くなれることであると伝えてもいます。自分は弱い・臆病だということで、そこで止まるのではなく、だから強くなる。それを「振り子の法則」ということを師匠に教えていただきました。その「振り子の法則」を子供たちに、体験として伝えていきます。そしてKリーグでは、子供たちに「視座」を上げるといっています。「視座」というのは、物を見る立場のことを言いますが、どのぐらいの「視座」で自分自身が物を見ているのでしょうか。例えば、社長の「視座」と社員の「視座」は違います。親の「視座」と子供の「視座」も勿論違う。もっと極端に言いますと、天皇の「視座」と国民の「視座」は違う。「視座」イコール(=)責任でもある。

自分自身のものを見る立場が、今現在どこにあるかということ、子供たちに伝えております。そして「視野」、目に見える範囲のことを言いますが、どの辺りまで見ているのか。日本だけでなく世界各地に子供たちがいて、どのような思いをして苦しい事をしている子供たちが、世界中にいるんだという事を伝えていきます。そして「視点」。何処から見ているのか、何処を見ているのかで、行動が変わってきます。「視座」が上がれば、「視野」が広がり、「視点」が増える。今まで見えていなかった所まで見えてくる。そうすると、言動・行動が変わってきます。自分自身を俯瞰して見なさいと子供たちに伝えております。小さな世界で悩んだり、しかとしたり、人をいじめたりして、「自分の事を小さいと思わないか」と。世界中には、もっと凄い奴がたくさんいるんだということをもっと感じてほしい。何時も言っていますが、宇宙から地球を見たときに、日本は何処にあるか。その日本の中で、自分は何処にいるのか。そんな小さな世界で、「何、しかとしているんだ」と言うと、子供たちは素直に聞いてくれます。「お前たちが出場している大会は、天下一武道会だぞ。もっと夢を持ちなさい。もっと広い視野、もっと広い視座を持ちなさい。」とっております。そして、将来の夢を見据えて、今を一生懸命頑張れよとっております。子供たちに、「視座」を上げて、「視野」を広く持てとっており、志を持ちなさいとっております。「志」とは、自分の力を超えた存在に自分という有限な存在を同化していく行動である。子供たちに、自分の目標は何かとか、将来何になるとかの質問をすると、「普通のサラリーマンでいいです。」とか「マイホームを建てたい。」と言う。私は、「それは、夢でも志でもなく、目標だよ。目標と志は違うよ。」とっております。「志」とは、自分の力を遥かに超えた大きな存在に対し、自分というちっぽけな有限な存在をどれだけそれに同化させることができるかというチャレンジだと思えます。

武道の言葉で、「守・破・離」と言います。まず「守」ですが、主に教えられた事を正しく理解し、それをしっかりと身に付ける事を言います。子供たちに話すときは、言い方を替えて、「まず、基本を身に付けなさい。師匠に教えられた事をしっかりと守って、まずは自分自身の基本を身に付けなさい。」とあります。次に、「破」ですが、師匠に教えられ身に付けた事を特性に合うように修行し、自らの境地を見つかること。基本を身に付けたら、今度は自分の特性、自分の個性をどう引き出していくかということに意識を向けなさいと伝えます。言い方を変えれば、「自分なら出来ることは何だ。それぞれ違う。足の速い子は、走るのが得意。自分の得意な事をもっと磨きなさい。」というふうに伝えております。そして「離」とは、それらの段階を超えて、何ものにも囚われない境地を言います。基本を身に付け、自分なら出来る特性を見出した後は、自分にしか出来ないことまで作り上げなさい。所謂得意技です。自分にしか出来ない事を、一人一人が強く持つと、強い「個」の集まりであるチームが出来上がります。人と比べ始めるからだんだんとテンションが下がる。そして、人間力ピラミッドと呼んでいますが、大事なものは覚悟を決めることである。自分の「志」に向かって、自分を同化させていくという強い覚悟を持ちなさい。腹を決める、それが本気だよ。「腹」が覚悟で、「胸」が努力、「頭」が知識となる。ところが、今の子供たちは、逆のピラミッドになっている。子供の頃からインターネットを引いたり、雑誌を見たり、テレビを見たりして知識を得て、よく何でも知っています。うちの子供の口癖は、「俺、知ってる。」でしたからね。でも、「知ってる奴より、やってる奴。やってる奴より、出来た奴だぞ。」と家の息子に言っています。大事なものは、頭でっかちの知識ではなくて、今の子供たちに必要なのは、知識の量ではなくて、覚悟の量だ。これを伝えるためにも、誰も助けてくれない、やるしかない場を作って、体感してもらっている。

本日は、極端なお話をさせていただいたかもしれませんが、今の日本の子供たちは守られすぎています。しかも子供たちに苦しい場を与える勇氣もなくなってきました。そういうふうになっていく国は、絶対に強くなりません。どんなに理屈を並べても、世界中の人達の協調、思いを共有・共感しなければ、この日本も徐々に弱体化していくと思います。もう一度言いますと、大人の喧嘩は戦争になりますけど、子供の戦いは友情に変わります。子供の時から国際的な触れ合いをしていくことが、これからの日本の未来を作っていくことに繋がっていくと思っております。

本日は、貴重な場でお話をさせていただきましたことに感謝申し

上げ、私の話とさせていただきます。最後までご静聴有難うございました。

■謝辞



ご講演いただきました須田先生には、素晴らしいお話をさせていただきまして、誠にありがとうございます。何事も本気で行動することの大切さを学んだ様な気がいたします。私たちロータリアンにとりまして、今日の話は大変参考になったのではないかと思います。須田先生のKリーグのコンセプトの中にあります『各国の武道を通じ、身体を鍛え、痛みを知り、お互いを思いやる心を養うことは、世界が抱える社会問題の解決策になる一つと考えます。』というのを見まして、大変感銘を受けました。私たちのロータリー活動の中にもございます社会問題の解決、世界平和の実現を目指すという観点から見ても、おおいに共通点があるのではないのでしょうか。須田先生の益々のご活躍と、今日お集まりの皆様方の今後のロータリー活動や企業活動に邁進されますことを祈念いたしまして、本日の私のお礼のご挨拶とさせていただきます。

■会長報告



田先生からどのようなお話が伺えるか興味深々でございます。

世界の歴史の中で、一つの良い例としてヨーロッパのハプスブルグ家の神聖ローマ帝国が挙げられるのかなと思います。スイス貴族家系から、スイスの農民兵に領土から追い払われるようなかたちで、領土をオーストリアに広げ、そこから帝国をどんどん広げていったと言われております。ハプスブルグ家は、婚姻によって領土を拡大していった希な家系と思われれます。特に注目いたしましたのは、女帝マリア・テレジアの代になると義務教育を充実させ、教科書は当時のドイツ語ではなく、領土のその国その国の言葉で書かれたものを採用し、忠実に広げていったということです。ドイツ語を押し付けられることなく世界各地へ散っていったハプスブルグ家の末裔に、NHKの特番でやってりましたが、「今あなたは何人ですか?」という質問をぶつけますと、結構「ヨーロッパ人です。」という回答が多かった。極端な言い方をすると、ハプスブルグ家の末裔には、国境などではなく、後から国境の線を書かれたという印象があるのではないかと思います。

戦ばかりではなく、周りの文化・言語を理解することによって、共通の認識を深めることが出来、世界の理解に繋がるのではないかと思っております。「世界理解」という言葉は意味深長な言葉であります。また、今後も続く永遠のテーマであると思っております。以上、会長報告といたします。

■会務報告

- 帯広西RC 奥 敏則 幹事
- (1)帯広東RC、2月7日(火)の例会は2月9日の繰下げ例会と致します。
 - (2)帯広RC、2月8日(水)の例会は2月9日の繰下げ例会と致します。
 - (3)帯広北RC、2月10日(金)の例会は2月9日の繰上げ例会と致します。
 - (4)帯広南RC、2月13日(月)の例会は2月9日の繰上げ例会と致します。
 - (5)帯広北RC、創立記念夜間例会開催のご案内
日 時 平成24年2月17日(金)午後6時30分
場 所 ホテル日航ノースランド帯広
 - (6)帯広西RC、創立40周年記念夜間例会開催のご案内
日 時 平成24年2月23日(木)午後6時
場 所 北海道ホテル
 - (7)RI第2500地区第6分区分区【IM】開催のご案内
日 時 平成24年2月26日(日)午後1時(受付12時～)
場 所 ホテル日航ノースランド帯広
- ※尚、帯広西RC、2月16日(水)の繰下げ例会と致します。
帯広北RC、2月24日(金)の繰下げ例会と致します。
帯広南RC、2月27日(月)の繰上げ例会と致します。
帯広東RC、2月28日(火)の繰上げ例会と致します。

ロータリー情報

ロータリアンの政治家には、どんな方がいるのでしょうか。英国では、チャーチル、サッチャー両元首相が有名です。米国では、戦後の大統領では、トルーマン、アイゼンハワー、ケネディ、ニクソン、フォード、カーター、レーガン、ブッシュ親子と続き、民主、共和両党に渡っております。



↑携帯サイトができました。バーコードリーダーで読み込む事ができます。

例 会 日/水曜日 12:30~13:30
例会会場/ホテル日航ノースランド帯広
TEL0155-24-1234

- 創 立/昭和10年3月15日 ●認証番号/3820
- 戦後再開/昭和25年12月19日
- 事務局/帯広市西3条南9丁目 経済センタービル4F
TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033
- 発 行/クラブ広報
- 委 員 長/安岡美樹夫
- 高原 淳・田守 由宗・北野 宏明
堀江 威光・辺見 京一・加藤 敏紀
- ホームページアドレス/http://www.obihiro-rc.jp